

第5回

がん緩和ケアに関する 国際会議

完全同時通訳

2026.7.10 Fri. - 11 Sat.

参加事前登録締切

2026年6月15日(月)

会場

札幌パークホテル

札幌市中央区南10条西3丁目

参加費

医師 25,000円 **事前登録**

35,000円(当日参加)

医師以外 15,000円 **事前登録**

20,000円(当日参加)

定員 700名

※定員になり次第、登録受付を終了させていただきます。

後援：国際ロータリー第2510地区 札幌西ロータリークラブ、北海道医師会、札幌市医師会、北海道歯科医師会、北海道看護協会、北海道病院薬剤師会、北海道薬剤師会、北海道作業療法士会、北海道理学療法士会、日本理学療法士会

大会長／小船 雅義(札幌医科大学)

主催／医療法人東札幌病院

事務局

医療法人 東札幌病院
〒003-8585 北海道札幌市白石区東札幌3条3丁目7番35号
電話 011-812-2311(代表) FAX 011-823-9552
E-mail: office@sapporoconference.com
<https://www.sapporoconference.com>



ホームページ

2026.7.10 Fri.

シンポジウム1
08:00-12:00

がん疼痛に対するオピオイド：新たな科学とベストプラクティス

座長： **David Hui** (University of Texas MD Anderson Cancer Center, USA)

Russell Portenoy (Albert Einstein College of Medicine, USA)

パネル 1

序論：オピオイド応答の新たな科学

David Hui (University of Texas MD Anderson Cancer Center, USA)

Russell Portenoy (Albert Einstein College of Medicine, USA)

オピオイド応答のゲノム-ワイド関連解析：がん疼痛管理への意義

西澤 大輔 (国立精神・神経医療研究センター)

疼痛管理を目的としたオピオイド療法の薬理遺伝学

Todd Skaar (Indiana University School of Medicine, USA)

がん疼痛における神経炎症：

オピオイド療法に対する反応における腫瘍微小環境の役割

Angela Santoni (Sapienza University of Rome, Italy)

Edoardo Arcuri (National Cancer Institute, Rome, Italy)

パネル 2

序論：がん疼痛に対するオピオイド使用の臨床アップデート

David Hui (University of Texas MD Anderson Cancer Center, USA)

Russell Portenoy (Albert Einstein College of Medicine, USA)

がん疼痛治療におけるブプレノルフィンとメサドン

Russell Portenoy (Albert Einstein College of Medicine, USA)

オピオイドが免疫応答と内分泌機能に与える影響

Jason Boland (Hull York Medical School, UK)

強化／報酬系に対するオピオイドの影響：乱用のリスクとリスク軽減戦略

Joseph A. Arthur (University of Texas MD Anderson Cancer Center, USA)

ランチョンセミナー1
12:00-13:00

医学、ナチズム、ホロコーストに関するランセット委員会：

歴史的エビデンス、今日における意味合い、明日に向けた教育

Herwig Czech (Medical University of Vienna, Austria)

座長： **Declan Walsh** (Levine Cancer Institute, USA)



シンポジウム2
13:00-17:00

がん患者への個別化された緩和ケアとサポーターティブ・ケアの時代： 進歩と革新

座長： **Areej El-Jawahri** (Massachusetts General Hospital, USA)
中川 俊一 (Columbia University, USA)

※本セッションでは、終末期における化学療法、放射線治療、免疫療法、標的療法、緩和手術などの緩和治療の妥当性について議論する

進行固形がん患者に対する緩和ケア提供のイノベーション

Joseph A. Greer (Harvard Medical School; Massachusetts General Brigham Cancer Institute, USA)

ギャップを埋める：血液がんにおける包括的な緩和ケアとサポーターティブ・ケア

Areej El-Jawahri (Massachusetts General Hospital, USA)

新規治療と個別化医療の時代における緩和ケア：
非小細胞肺癌(NSCLC)を一つの視点として

Jessica R. Bauman (Fox Chase Cancer Center, USA)

腫瘍外科における緩和ケア：最近の進展と今後の展望

Ana Berlin (Columbia University Irving Medical Center, USA)

イブニングセミナー
17:00-18:00

欧州の視点：緩和ケアにおけるフューチャー・ケア・プランニング

Mark Taubert (Velindre University NHS Trust & Cardiff University School of Medicine, UK)

座長：高田 弘一 (札幌医科大学)

2026. 7. 11 Sat.

シンポジウム3
8:00-12:00

緩和ケアにおける患者と臨床医の出会いに対する精神力動的視点

座長： **Friedrich Stiefel** (University Hospital Lausanne, Switzerland)
Sarah Dauchy (Maison Médicale Jeanne Garnier, Paris, France)

緩和ケアにおける精神力動的視点

Friedrich Stiefel (University Hospital Lausanne, Switzerland)

緩和ケアに携わる臨床医の精神力動的視点

Sarah Dauchy (Maison Médicale Jeanne Garnier, Paris, France)

症状に対する考え方における精神力動的影響の歴史

James Levenson (Virginia Commonwealth University, USA)

心理療法的アプローチと緩和ケアはいかにしてがん診療に統合できるか？

Camilla Zimmermann (University of Toronto, Canada)

緩和ケア臨床において欠くことができない力動的視点

清水 研 (がん研究会有明病院)

ランチョンセミナー 2

12:00-13:00

苦悩の解明:重篤疾患における感情的苦悩、心理的苦悩、実存的苦悩、スピリチュアルな苦悩

Karen Steinhauser (Duke University, USA)

座長:小西 達也(武蔵野大学)

シンポジウム4

13:00-16:30

帮助死(安楽死、VAD、MAID)と緩和ケア:表裏一体か?

座長: **Luc Deliens** (Vrije Universiteit Brussel & Ghent University, Belgium)

David Currow (Flinders University, Australia)

第1部 世界における帮助死の実践と経験

世界における帮助死法制と実践の進展

Luc Deliens (Vrije Universiteit Brussel & Ghent University, Belgium)

世界各地における緩和ケア、および帮助死(AD)を選択する人々の社会人口学的特性に関する実証的エビデンス

James Downar (University of Ottawa, Canada)

帮助死(安楽死、VAD、MAID)と緩和ケア:同じコインの表と裏か?

David Currow (Flinders University, Australia)

緩和ケアと帮助死:境界の再考、実践の再構築

Claudia Gamondi (Palliative Care and Support Service at CHUV; UNIL, Switzerland)

第2部 映画上映

“Last Flight Home”の紹介 **Ondi Timoner**

“Last Flight Home”

監督: **Ondi Timoner**

1982年7月、イーライ・ティモナーは突然の脳卒中で左半身不随となり、53歳でエア・フロリダのCEOを辞任せざるを得なくなった。当時、彼は1日2マイルを走り、テニスをし、健康的な食生活を維持していたのだが、その後は、歩行が不安定なまま生涯を終えた。

イーライ・ティモナーは2021年1月、呼吸困難で入院。我々は、イーライ・ティモナーの最期の日々、素晴らしい功績、悲劇的な喪失、そして何よりも永続的な愛に満ちた比類なき人生を目の当たりにする。「Last Flight Home」は、彼の最後の旅路を、彼の勇気ある家族が最後まで見守るといふ、感動的な社会体験を描いた作品である。

この映画は、米国ユタ州パークシティで開催された2022年サンダンス映画祭で最優秀ドキュメンタリー賞を受賞した。

※この映画の予告編はYouTubeで見ることができる。Luc Deliensがアメリカの学会でこの映画全編をレビューしたところ、帮助死における緩和ケアの重要性と複雑さを示す非常によくできた作品であった。